

令和7年度

学 校 評 価 表

(中間評価 ・ 最終評価)

東広島市立入野小学校

学校教育目標			「夢と志」をもち、未来に向かって果敢に挑戦する児童の育成				経営理念		ミッション：自分も相手も大切にし、自ら考えて行動することができる児童の育成 ビジョン：信頼される学校づくり					
評価計画							自己評価				改善方策		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策	評価	コメント
							9月	1月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ楽しさが味わえる授業づくりをすることで、確かな学力をつける。	☆知識・技能の習得	○ICT機器を効果的に活用した授業を行う。 ○スキルタイムを継続して実施する。	・NRT、標準学力調査標準スコア（国語・算数）	児童50	国語 49.25 算数 48.05		98.5% 96.1%	3	○9月は、国語科、算数科共に目標値に達していなかった。これは、個々に応じた指導が充実できておらず、学力の二極化になっていると考える。	○全体指導と個別指導を効果的に使い分け、学力が定着していない児童への指導を充実させる。 ○スキルタイムなどでICTの活用を続けつつ、AIの分析による、個別の練習問題を活用し、学力の定着を図る。	B	概ね適切に評価されている。課題分析の中で「個々に応じた指導が充実できておらず」となっている。この点に着目して昨年度との違いを分析し、目標値達成を目指してほしい。
			○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業改善	○授業のユニバーサルデザイン化を図り、個別最適な学びと協働的な学びを生かした授業改善を行う。 ○ユネスコスクールとして、SDGsの達成を目指し、地域創生プロジェクトで体験活動を実施するとともに、教育活動全体を通じて表現したくなるような工夫を行い、表現する機会を設ける。	・授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・自分の地域の良さを表現している。 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。	児童80% 児童85% 教職員100%	児童86.3% 児童81.9% 教師100%		108.9% 96.4% 100%	3	○自分から取り組んでいることについては、前年度より数値が高くなり、授業改善の取組が効果的であったと考える。 ○地域の良さの表現については、前年度の同時期76.3%より数値が高くなった。これまで表現活動を学期末に設定していたため、9月時点の達成値が低いことが課題であったが、教師が表現を意識した単元構成を工夫することによって、児童の意識にも改善が見られたと考える。 ○指導の工夫については、校内研修を通して、教職員が意識統一し、授業改善に取り組もうとしていたと考える。	○さらに、児童の主体性を促すために、継続してペアやグループなど協働する場を工夫をしていきたい。 ○今年度は校内研修で、国語科の授業改善を軸にし、複数の教科を横断的に学習することで、年間を通じて児童の表現の機会を保障し、指導していくことができるように取り組んでいる。さらに研鑽を重ねていく。 ○校内研修を通して、理論と実践をつなげる。授業改善の具体的な方法を教員間で共有し、SDGsカレンダーの「入野っ子学びの言葉」として成果を残す。	A	概ね適切に評価されている。この調子で、ペアやグループ協議する場を設けて自己表現する力を磨いていってほしい。
豊かな心	2	自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。	☆相手を大切にする礼儀・マナーの向上	○東広島スタンダード（特に挨拶）を示し、意識させる。 ○各学級において挨拶する機会を意図的に設定するとともに、挨拶レベル向上のための取組を考えさせる。	・あいさつレベル4ができている。	児童70% 教職員80%	児童46.4%		66%	1	○目標値に対して、児童の達成度が低かった。あいさつについて肯定的評価を行う機会が少なく、夏休み明けから特にあいさつへの意欲が低下したと考える。	○生徒指導部を中心に機会あることにあいさつの評価を行うとともに、児童運営委員会で児童自身に考えさせ、学校全体での取組を企画させる。また、あいさつを基にマナー等について考えていく。	B	改善方策は、適切である。一方でマンネリ化を心配している。あいさつ以外の面でのアプローチも視野に入れて指導を継続してほしい。
			○自己有用感の向上	○各学級において、お互いを褒め合う場面を定期的に設定する。 ○各種場面で肯定的な評価を意図的に実施する。	・褒められて嬉しいと感じたことがある。 ・自分は人の役に立っている。	児童80% 児童80%	児童85.4% 児童72.6%		106% 90.7%	2	○褒められて嬉しいと感じる児童は目標値を上回った。 ○自分は人の役に立っていると感じる児童は目標値を下回った。役割を果たすことと評価される機会が少なかつたと考える。	○「自分は人の役に立っている」と感じる場面が増えるように、係や当番活動、委員会活動等、人の役に立つ活動を充実させる。みんなのために進んで行動できたことを見逃さず、しっかりと褒める。	B	概ね適切に評価されている。改善方法の「適切に評価していく」とは具体的にどのように評価していくのか明確にしてほしい。
健やかな体	3	基本的生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	☆学習姿勢の意識化	○姿勢を安定させることが健康の保持につながることを学習させる。 ○体幹を鍛えるエクササイズを実施する。 ○授業の開始・終了時の「立腰」で意識させる。	・姿勢を安定させることが健康のために大切なことを知っている。 ・立腰を意識し、取り組んでいる。	児童70% 児童70%	児童92.7% 児童51.4%		132% 73%	2	○姿勢を安定させることが健康のために大切なことを知っている児童は目標値を大幅に上回った。児童が集まる場で立腰の大切さを伝えたことが要因だと考える。 ○立腰を意識して取り組んでいる児童は目標値を下回った。健康のために大切なことを知っているの、長時間立腰を保持することができた児童が増えた。一方、長時間、立腰を保持することは難しいと感じた児童が増えた。	○引き続き児童が集まる場で立腰の大切さについて教えていき、各学級でも、度々、話題に出して意識させていく。 ○引き続き体幹を鍛えるエクササイズに取り組んでいく。	B	概ね適切に評価されている。「体感を鍛えるエクササイズ」の取組は、おもしろい取組である。校内研修などで意識改革を進めると多面的見方ができると考える。
			○運動・外遊びの奨励	○委員会活動を中心に、運動や外遊び奨励の取組を企画・実行するとともに、環境整備を進める。	・運動や外遊びが好きである。	児童90%	児童88.4%		98%	2	○運動や外遊びが好きな児童はほぼ目標値である。昨年度より数値が下がっているが、猛暑のため、外遊びができる時間が減少したことも影響していると考ええる。	○外遊びをするのに適した気候のうちに外遊びを推奨する取組を委員会活動などで行う。	B	概ね適切に評価されている。体育館の活用や室内でできる運動・遊びを考えてほしい。
信頼される学校	4	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。	○保護者や地域に開かれた学校の実現	○保護者対象アンケートを実施し、その都度、改善方策を検討するとともに、学校の様子を保護者や地域に発信する。	・学校は、学校の様子を分かりやすく伝えている。	保護者90%	保護者94.4%		104%	3	○目標値を上回った。学校だよりや学年だよりでは月に1度、ホームページでは行事の度に学校の様子を伝えてきた。また、PTA役員会や地域の集まりでパワーポイント等を使って児童の様子を伝えたことが評価が高かった要因だと考える。	○引き続き、児童の様子を学級だよりや学校だより、ホームページで保護者や地域に伝えていく。	A	概ね適切に評価されている。保護者が好評をしている点は素晴らしい。情報発信を地道に継続してほしい。
			○業務改善の推進	○児童と向き合うための教職員同士の対話を通して、アイデアを共有し、改善意識や同僚性を高める。 ○早期解決を図るため、報告・連絡・相談を徹底し、スピード感をもって対応する。	・自分が掲げた業務目標に向かい、効果的・効率的な仕事ができている。 ・児童と向き合う時間（授業準備等含む）が確保できている。	教職員90% 教職員70%	教職員73.0% 教職員66.0%		81.0% 94.0%	2	○「目標に向かって仕事ができている」は、目標値を下回った。授業準備や生徒指導、担当する分掌に追われ、報告・連絡、相談が十分できていないことが要因だと考える。 ○「児童と向き合う時間が確保できているは、目標値を下回った。日々の業務に追われ、じっくり児童と向き合えないことが要因だと考える。	○学習指導の仕方や担当する分掌、生徒指導等について同僚に相談することで、学習指導内容が充実したり、早期に文書を提案したり、問題がにやかに解決したりすることができるようにする。	B	概ね適切に評価されている。児童・保護者対応や授業研究・校務分掌など大変な仕事量だが、職場の人間関係づくりが上手に行けば、楽しく業務が遂行できるものと考ええる。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
●4（目標を上回って達成）≥105%
●95%＞2（目標をやや下回って達成）≥70%
●105%＞3（目標どおりに達成）≥95%
●70%＞1（目標をかなり下回って達成）

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない